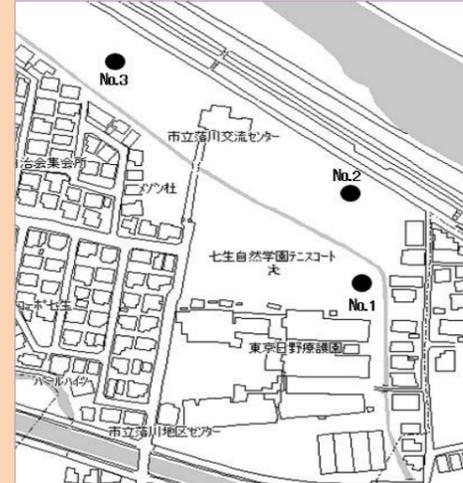


落川交流センター 土壌中のダイオキシン測定結果 環境基準を大きく下回りました

日野市では、クリーンセンターの排ガスが周辺土壌に影響がないことを確認するため、落川交流センター敷地内の土壌調査を5月16日に行いました。

これは、平成17年度に東京都が行った落川交流センターの測定結果(120 pg-TEQ/g ※1)について、周辺の皆さまよりご心配の声があったため、改めて日野市として調査したものです。

調査した3地点、すべてにおいて環境基準(※2)の1,000pg-TEQ/gを大きく下回っており、また調査指針値(250 pg-TEQ/g)と比べても低い値となりました。



測定結果	No 1 地点	No2 地点	No 3 地点
	29pg-TEQ/g	35pg-TEQ/g	3.8pg-TEQ/g

(※1) TEQ: 毒性当量、pg(ピコグラム): 1兆分の1g

(※2) 環境基準…人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持することが望ましい基準(土壌: 1,000pg-TEQ/g 以下)。なお、平成22年度環境省が実施した土壌のダイオキシン類環境調査結果によると、全国平均値は3.0 pg-TEQ/g、最小値~最大値は0~94 pg-TEQ/gとなっています。

➤ 分析結果について

今回の調査地点は、クリーンセンターの南側約500mに位置する落川交流センター敷地内の3地点です(右上図参照)。クリーンセンターからの排ガスの影響を考えると、3地点は同じ条件で影響を受けると推察されます。

調査地点で検出されたダイオキシン類の同族体、異性体分布図(※3)で分析した結果、農薬や除草剤、たき火などの影響を受けていると考えられます。分析結果の詳細は、市ホームページに掲載していきます。

(※3) ダイオキシン類の種類は200種類以上あり、毒性の強いものから弱いものまであります。塩素の各化合物を異性体、塩素数が同じ異性体の一群を同族体として整理し、これらのパターンを分析することにより発生源を推定できます。

➤ ダイオキシン類の発生源

ダイオキシン類は、炭素と水素に塩素と酸素が結合して発生するもので、太古の昔から自然界に存在します。

ごみ焼却、野焼き、製鉄用電気炉、たばこの煙、自動車排ガスなど、燃やすところから発生し、かつて使用していたPCB(ポリ塩化ビフェニル)や一部の農薬、除草剤に不純物として含まれています。

日野市

第17号 平成26年7月16日



可燃ごみ処理施設のあり方について 地元の皆さまと話し合いを進めています

これまで、地元住民の皆さまなどへは、説明会、資料の戸別配布などを1年半かけて行い、さまざまなご意見をいただきました。

この5月からは、周辺自治会に意見交換の場として設置されたごみ広域化対策委員会などに対し、市長を交えて①今後のスケジュール②基本設計③環境影響調査④ごみ収集車の搬入路、などについて説明を行い、ご意見をいただいています。

現在は3つの地域に分かれ協議を進めていますが、将来は、クリーンセンター周辺の3地域が一つにまとまった地元協議会を設立していきたいと考えています。

可燃ごみ処理施設の建て替えについては、今後も地域住民の皆さまのご理解とご協力をいただけるよう、引き続き話し合いを進めてまいります。



●周辺自治会への協議状況

地域(自治会)名	状況
新石自治会	5月以降、月1回意見交換会を開催
落川地域	6月に1回意見交換会を開催
新井地域	現在、意見交換の場設置に向け協議中

今後もクリーンセンターだよりで情報をお知らせします

クリーンセンター周辺にお住まいの方々につきましては、今後もこの「クリーンセンターだより」で情報をお知らせしていきます。

ご意見・ご要望がありましたらクリーンセンターまでご連絡ください。

ごみ処理施設建設基本設計がまとまりました

新可燃ごみ処理施設の施設規模、排ガス処理方式、煙突の高さなどの基本条件を定めた「ごみ処理施設建設基本設計」がまとまりました。

ごみ処理施設建設基本設計書は、市ホームページ、市政図書室、中央図書館でご覧になれます。

施設規模は1日290トンから250トンに縮小

これまでの説明会では、新施設の規模を最大290t/日としてきましたが、新可燃ごみ処理施設が本格稼働する平成32年度の日野市・国分寺市・小金井市の3市の計画ごみ処理量を精査し、災害廃棄物処理も考慮した結果、今回の基本設計では250t/日の施設規模としています（現施設は220t/日）。

排ガス対策は最高度の処理施設で

新施設の排ガス基準値は、全国トップレベルの厳しい基準（下表参照）としており、煙突の高さについては、厳しい自主規制値を設定したことに加え、建設費用や景観などを考慮した結果、現状の施設と同じ59mとしています。

●排ガス濃度自主規制値（計画設定値）

	法律（※1）	現施設の自主規制値	新施設の自主規制値
ばいじん g/m ³ N 以下	0.04	0.04	0.005
硫黄酸化物 ppm 以下	約2,100	30	10
窒素酸化物 ppm 以下	250	150	20
塩化水素 ppm 以下	430	150	10
ダイオキシン類 ng-TEQ/m ³ N 以下	現施設：1 新施設：0.1	0.5	0.01
水銀 mg/m ³ N 以下	—	—	0.05

※1：大気汚染防止法、ダイオキシン類対策特別措置法による規制値

さらなるごみ減量に取り組みます

3市では、これまででもごみ減量に積極的に取り組んでおり、今後も引き続き取り組んでいきます。今後の日野市のごみ減量の方策は、市民の皆さまとともに作り上げる予定の「第3次ごみゼロプラン」で具体化する予定です。

旧し尿処理施設の解体工事を行っています

平成22年3月まで稼働していた旧し尿処理施設は、昨年夏から秋にかけて沈殿していた汚泥などをすべて抜き取り、今年の11月までにすべてを解体します。

解体工事には、近隣の皆さまにご迷惑をおかけしないよう、以下の対策を行っていますので、ご理解くださいますようお願いいたします。



- ①低騒音型の削岩機（ブレーカー）の使用
- ②防音シートで覆い、騒音発生を防止
- ③ホコリが飛ばないように散水しながらの作業

■工事名：日野市クリーンセンターし尿処理施設解体撤去工事
■工期：平成26年11月28日（金）まで ■解体対象施設建築面積：約3,500m²

環境影響評価調査が始まります



▲バルーンによる上層気象調査

環境影響評価は、良好な環境を保全していくため、計画している焼却処理施設が周辺地域の環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ周辺地域の環境の現況を把握し、施設の設置による影響を予測して分析・評価するものです。

これは、東京都環境影響評価条例に基づき実施するので、現在、東京都と調査手法などについて調整をしています。

環境影響評価計画書については、今後、公告、縦覧を行います。

なお、環境影響評価の詳細が決まりましたら、広報ひの、市ホームページ、クリーンセンターだよりなどでお知らせします。